



2023年度 第2四半期の 決算概要と今後の経営戦略

2023年8月7日
クリエイトメディック株式会社
代表取締役社長 谷口 英彦

- 当社グループでは、コロナ禍の営業戦略、重点分野の新製品開発、MDRのライセンス維持に注力

国内市場

- 新型コロナウイルス感染症
 - ・ 5類感染症移行による社会活動の正常化
 - ・ 医療機関等における訪問制限の緩和
- 製品の安全性
 - ・ 生物学的安全性試験、植込み型医療機器等のMRI安全性評価など、安全性の規制強化
- サステナビリティ、環境対策
 - ・ サステナビリティの取組みに対する社会的な期待
 - ・ エチレンオキサイド排出削減の強化

海外市場

- 新型コロナウイルス感染症
 - ・ 中国はゼロコロナ政策が解除、社会活動の正常化
 - ・ 世界的に一部渡航制限は残るものの正常化
- ロシア、ウクライナの侵攻
 - ・ ウクライナ情勢は未だ収束の見通しが立たず
 - ・ 欧米の金融政策による急激な円安
 - ・ 原油価格や物価が高騰
- その他
 - ・ 中国の政府主導による入札制度「共同購買」、医療機器の輸入品を国産化に切替える政策
 - ・ 欧州は医療機器器規則（MDR）により安全性の強化

営業成績



- 売上高は、自社販売が減少したものの、海外販売・OEM販売が増加となり増収確保
- 利益面では、売上原価が原材料の高騰や物流コストの高止まり等により、営業利益、経常利益が減益。四半期純利益は繰延税金資産計上に伴う法人税等の調整により、増益。

	2022		2023		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	5,921	—	6,025	—	104	+1.8%
売上原価	3,296	55.7%	3,417	56.7%	120	+3.7%
売上総利益	2,624	44.3%	2,607	43.3%	△16	△0.6%
販管費	2,253	38.1%	2,271	37.7%	18	+0.8%
営業利益	371	6.3%	335	5.6%	△35	△9.5%
経常利益	470	8.0%	371	6.2%	△99	△21.2%
四半期純利益	266	4.5%	316	5.3%	49	+18.6%

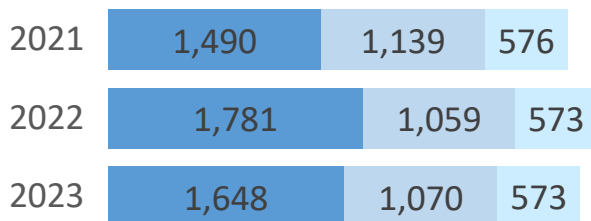
売上高（販売形態別）



売上推移

コメント

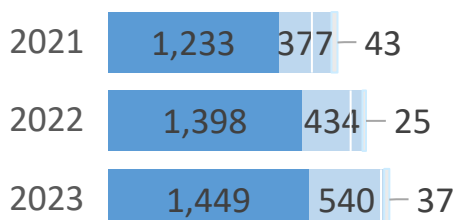
自社販売



(百万円)

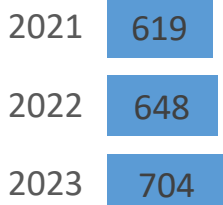
- 泌尿器
- 消化器
- その他

海外販売



- 中国販売
- 輸出版売
- その他

OEM販売



■ 自社販売 3,292M（前期比△3.6%）

■ 泌尿器 1,648M（前期比△7.5%）
導尿関連のフォーリトレイキットはの欠品影響により減少、一方、尿管留置用ステントは好調

■ 消化器 1,070M（前期比+1.0%）
腸閉塞治療のイルウスチューブが増加、胃ろう関連は販促活動強化により回復

■ その他 573M（前期比+0.1%）
外科系製品 腹腔鏡下手術用鉗子が増加

■ 海外販売 2,028M（前期比+9.1%）

■ 中国販売 1,449M（前期比+3.6%）
泌尿器の結石治療製品が内視鏡的術式により減少
組織採取の生検針は減少も消化器イルウスチューブが
堅調な伸びで全体では増加

■ 輸出版売 540M（前期比+24.4%）
コロナ禍の需要回復、欧州MDRの撤退メーカーの代替需要、その他、新興国等の新規受注獲得

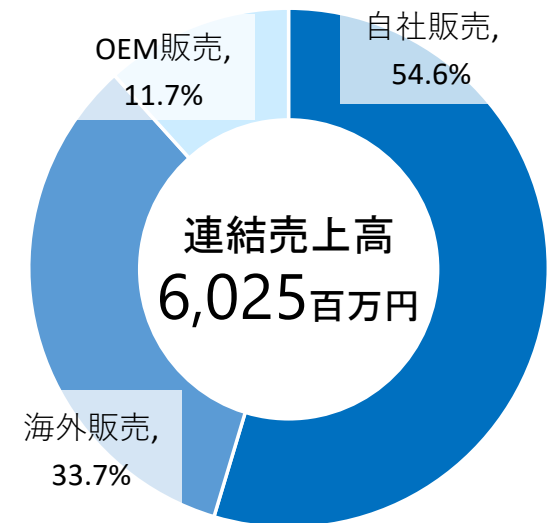
■ OEM販売 704M（前期比+8.7%）
婦人科系・看護検査系製品が増加、その他は横ばい

売上構成（販売形態別）

- 自社販売は減少したものの、海外販売・OEM販売が増加
- 特に海外販売は、輸出販売の好調が牽引

	2022	2023	増減額	増減率
総合計	5,921	6,025	+104	+1.8%
自社販売	3,414	3,292	△121	△3.6%
海外販売	1,858	2,028	+169	+9.1%
OEM販売	648	704	+56	+8.7%

売上構成比



販売費及び一般管理費



■ コロナウイルス感染拡大による移動制限が緩和したため、旅費交通費が増加

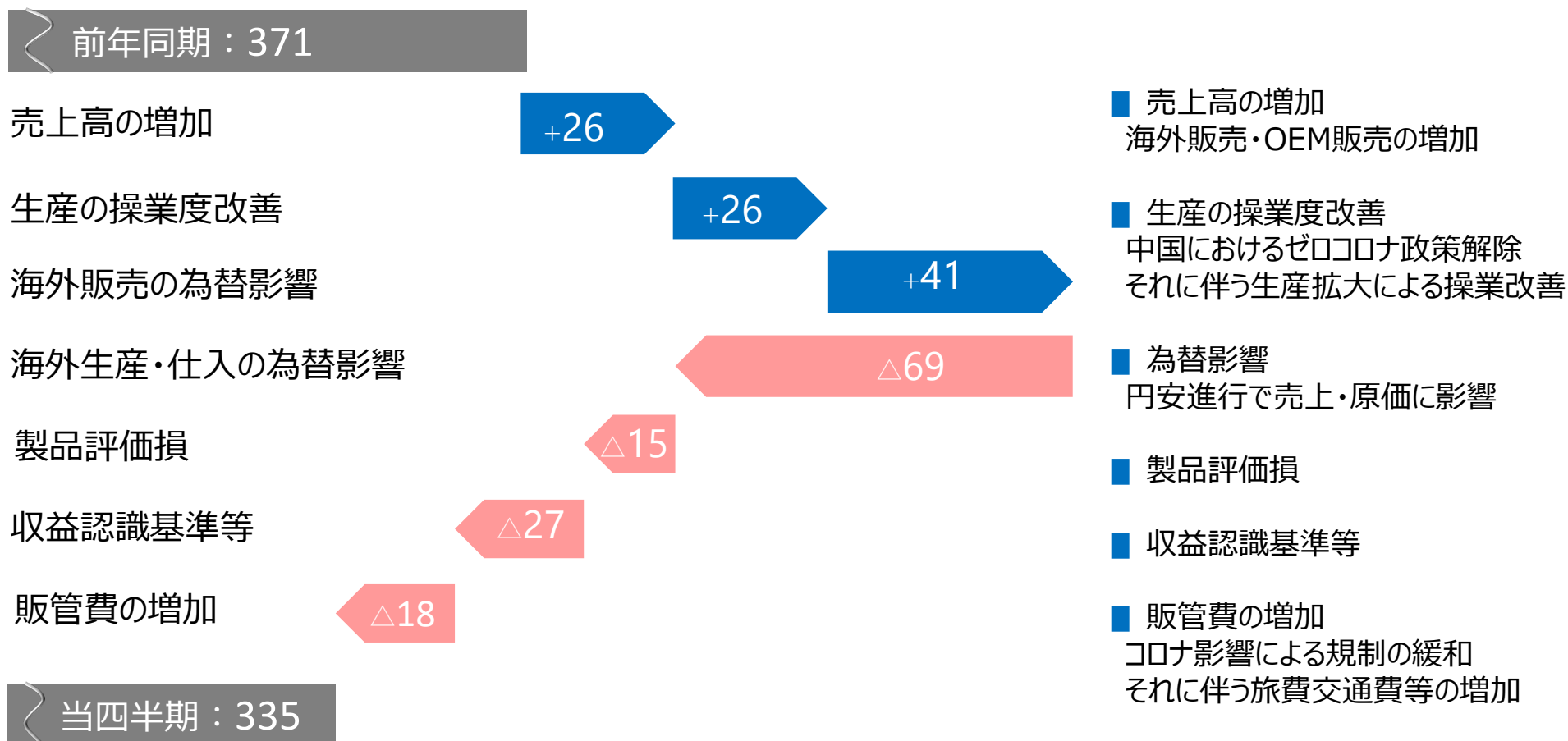
(百万円)

	2022	2023	増減額	増減率	
販売費及び一般管理費	2,253	2,271	+18	+0.8%	
人件費	1,377	1,373	△3	△0.3%	国内の人員が減少 グループ会社の昇給
給与手当	1,023	1,029	+6	+0.6%	
退職給付費用	54	40	△14	△35.3%	
法定福利費	205	211	+6	+3.0%	
経費	876	897	+21	+2.4%	
旅費交通費	40	56	+16	+28.3%	移動制限緩和等の影響
修繕費	53	42	△11	△25.9%	
減価償却費	147	158	+10	+6.7%	

営業利益分析



(百万円)



經常利益、四半期純利益



(百万円)

	2022	2023	増減額	
営業利益	371	335	△35	
営業外収益	104	46	△58	受取利息、為替差益
営業外費用	5	10	+5	固定資産除却損、支払利息
經常利益	470	371	△99	
特別利益	18	25	+7	中国大連市奨励金
特別損失	—	—	—	
法人税、 法人税等調整額	222	80	△142	繰延税金資産の計上
四半期純利益	266	316	+49	

設備投資・研究開発費

■ 設備投資

- 国内は成形機の取得等
- ベトナムクリエートの生産設備、大連クリエートの生産設備および建屋の改修

(百万円)

	2021	2022	2023	
設備投資額	360	88	261	
(減価償却費)	221	311	288	大連クリエートにおける建物の耐用年数変更

■ 研究開発費

- 国内の生物学的安全性試験の減少
- 大連クリエートの開発体制強化により増加

(百万円)

	2021	2022	2023	
研究開発費	352	433	421	

通期の業績予想



■ 連結業績予想

(百万円)

	2022		2023(予)		増減額	増減率
	実績	売上比	予想	売上比		
売上高	12,257	—	12,537	—	+279	+2.3%
営業利益	737	6.0%	885	7.1%	+147	+20.0%
経常利益	809	6.6%	902	7.2%	+92	+11.5%
当期純利益	460	3.8%	591	4.7%	+130	+28.3%

■ 販売形態別売上

(百万円)

	2022	2023(予)	増減額	増減率
総合計	12,257	12,537	+279	+2.3%
自社販売	6,986	7,060	+73	+1.1%
海外販売	3,930	4,115	+184	+4.7%
OEM販売	1,340	1,362	+21	+1.6%

新発売「ロックアーム」について

内視鏡用ホルダ

新発売

ロックアーム

【発売日】

2023年8月7日(月)

【腹腔鏡下手術とは】

専用の各種手術器具や鉗子を腹部に入れることで、行う術式のことです。
開腹手術と比べ低侵襲であります。

【ロックアームとは】

当製品は、内視鏡装置や鉗子を固定するものであり、腹腔鏡下手術において、内視鏡装置等を操作する、スコピストに代わり、執刀医が自ら操作を行えることが特徴です。



サステナビリティの取組について

■ サステナビリティの取組み

当社は、2022年4月にサステナビリティ委員会を社内に発足させ、代表取締役社長を委員長とし、サステナビリティ基本方針の決定及びマテリアリティ(重要課題)の選定を行いました。

今後は、特定したマテリアリティごとに具体的な取組事項を設定し、適切な方法での開示を行います。

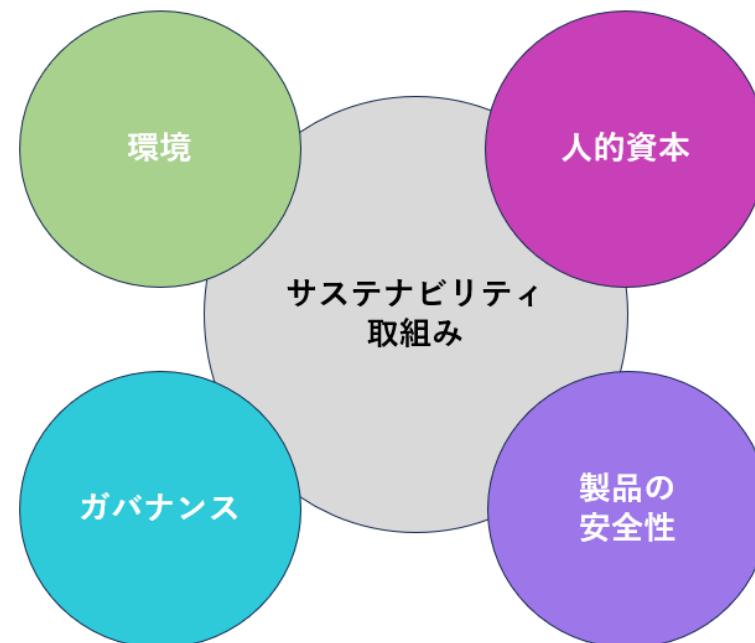
サステナビリティ基本方針

当社は、経営理念である“からだにやさしい未来の医療を築く”の実践を通じ、持続可能な社会実現のための課題解決の一翼を担うことを目指します。

- ・ 人々に役立ち喜ばれる製品を創造し提供する。
- ・ 従業員の生活を豊かにし、働きがいのある職場をつくる。
- ・ 企業の持続的成長に不可欠な多様な人材の発掘・登用・教育・育成に努める。
- ・ 環境へ配慮した事業運営を目指す。
- ・ 創造性、意外性、感動性ある製品を創出する。
- ・ 安全に安心して使っていただける製品の提供、責任ある調達につとめる。

マテリアリティの選定

当社は自社のマテリアリティを、「環境」、「人的資本」、「ガバナンス」、「製品の安全性」に分類し、取組事項を決定いたします。



■ 利益還元の基本方針

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要施策と位置付け、今後の収益力向上のために内部留保による経営基盤の強化を図りつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としております。

	2022実績	2023(予)
配当金	37.0円 中間 17.0円 期末 20.0円	37.0円 中間 17.0円 期末 20.0円



将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、現時点の見通しに基づくものであり、
予期せぬ事象や経営環境の変化により実際と異なる可能性があります